

Interview

インタビュー



野尻原改良区理事長  
井手 敦巳 さん

先人と水源地に感謝

今では水路も老朽化が進みました。管理も労力を要しますし、災害を受け、1週間水が来なかったことも。畑かんに寄せる期待は大きいですが、いずれ隧道の一部が役目を終えると思うと、感慨深いものがあります。

**現** 在、漆野原土地改良区は、組合員214名、野尻原土地改良区は、675名で組織。それぞれ141名、191名の水田へ水を供給しています。

恵を運ぶ水路はいま

は小林の石氷川、浜ノ瀬川、谷ノ木川の3つの川から水路を引くことに成功しました。



野尻原開田事業に尽力した田丸貞重氏。



漆野原開田事業に尽力した信時金之助氏。

当時としては、途方もなく大きな事業。今のような交通手段も機械もない時代です。工事は、想像を絶する苦難の連続でしたが、2人は農民とともに奔走。結果、漆野原は遠く須木の内山を流れる浦之名川から、野尻原

昭 和初期に旧野尻町で行われた開田事業があります。須木から水を引いた漆野原開田事業と、小林から水を引いた野尻原開田事業。これらの工事は、水に乏しかった野尻の農業に革新をもたらしました。それらの工事に深く関わり、実現不可能と言われた工事を成功に導いた2人の偉人がいます。信時金之助氏は紙屋の漆野原開田事業、田丸貞重氏は三ヶ野山から東麓にかかる野尻原開田事業に、ともに私財を投げ打ち、生涯を捧げました。

水が小林と野尻を結ぶ



谷の木にあるサイフォン。水を運ぶ隧道や掛樋、トンネルなどの構造物は約80年前に構築され、野尻の稲作に重要な役割を果たしています。険しい渓谷を切り開き、長い水路や数多くのトンネル、特殊設備等の工事は、挫折の危機に瀕するほど苦難の連続でした。



今でも野尻町区で受け継がれるフロンティア精神。そのシンボルともなっている開田事業を成し遂げた2人。現在でも、「開田の父」と讃えられ、野尻庁舎前に胸像が設置されています。



田丸貞重

信時金之助

野尻開田物語

小林の豊富な水によって野尻の農業は変を遂げた



総延長18キロに及ぶ小林からの幹線水路工事。難工事で、幾度か挫折の危機に直面したといえます。

Praise

先人の偉業を語り継ぐ

開田事業を調査し、『野尻原開田物語』の脚本を手がけた桂木 喬さん



田丸氏の功績を讃える劇『野尻原開田物語』。教育の一環として、毎年、町内小学校で演じられています。脚本を手がけたのは元学校教諭の桂木喬さん。「先人の偉業を埋もれさせてはいけない」と、野尻原開田事業の調査研究を始め

ました。田丸氏の遺族や事業に関わった人を尋ねるなど、約6年にわたり取材。平成15年に前半部分、平成16年には後半部分の脚本を書き上げ、市民有志によって演じられました。桂木さんは「埋もれている歴史、先人の偉業はまだまだあるはず。それらを掘り起こし、郷土の魅力につなげていきたい」と現在も様々な調査を続けています。



有志が演じる劇『野尻原開田物語』。

野尻原の水路は、総延長18キロ。隧道や出発地より高い地を通って水を導く装置「サイフォン」は、遺産的価値も見出されています。通水から80年、現在でも水を運び続けているものの、老朽化が進み、災害で被害を受けるなど管理も労力を要します。組合では、建設が進む『西諸地区畑地かんがい整備事業』に期待を寄せています。「畑かんは水路の故障も少なく、安定した水の供給が望める」と井手理事長。「しかし、先人が夢を抱き、生涯を捧げて完成させた水路。老朽化に耐え、水を供給しつづけてくれた」と感謝の気持ちでいっぱいです。

畑かん事業にその役目と夢をバトンタッチする水路。しかし、その一部は、今後も恵みの水を農地へ運び続けます。